北 信 技 保 第 ３ １ 号
令 和 ８ 年 １ １ 月 ２ 日

管内各県トラック協会会長　　殿

北陸信越運輸局　自動車技術安全部長
（公印省略）

トレーラ連結部の分離・脱落事故の防止について（注意喚起）

今般、大型トラクタとトレーラを連結して走行中に、車両が分離する事故が短期間に相次いで発生しました。事故概要は下記のとおりです。

人的被害はなかったものの、住宅の損壊や長時間にわたる交通規制が発生しており、一歩間違えれば人命に関わる重大事故につながりかねない事案でした。

事故原因については現在も調査中ですが、トラクタとトレーラの連結装置（カプラ）のロック不完全、連結状態の確認不足、または連結装置の作動不良などが要因として考えられるところです。

つきましては、下記の事故概要及び留意事項をご確認いただき、連結部（カプラ・キングピン等）の確実な点検及び適切な連結作業の徹底について、貴会会員に対し周知いただきますようお願いいたします。

記

１　事故の概要

【事案１】

発生日時	令和８年４月６日（月）午前７時頃
被害状況	人的被害は発生しなかったが、沿道の住宅の一部が破損
事故概要	荷主先へ向け走行中、緩やかな右カーブに差しかかった際、トラクタとトレーラが突然分離した。分離したトレーラは自車線左側の住宅に衝突し、住宅の一部を損壊したもの

【事案２】

発生日時	令和８年３月２４日（火）午後５時頃
被害状況	人的被害はなかったが、約９時間にわたり、片側二車線のうち一車線の通行規制が行われた
事故概要	濃硫酸（劇物）を積載したタンクセミトレーラが走行中、トラクタとトレーラの連結部が外れて分離し、走行不能となった。人的被害及び積荷の漏えいはなかったが、片側二車線道路の左側車線を塞ぐ状態となったもの

２　留意事項

・トラクタ・トレーラの連結作業は、各車両に装着されているカプラのメーカーを確認した上で、当該メーカーが公表している連結手順に従い、確実に実施すること。
・運行前点検においては、連結部（カプラ、キングピン、ロック機構等）が確実に締結・ロックされていることを、単に音や感覚のみに頼ることなく、目視確認及び引き離し確認等により徹底すること。
・連結装置については、摩耗や劣化の状況に十分留意し、定期点検及び整備を確実に実施すること。
・運転者及び作業員に対し、連結装置の重要性並びに連結時の確認手順について、改めて教育・訓練を実施し、確実な作業の徹底を図ること。

３　参考資料

連結装置（カプラ・キングピン等）の正しい連結方法・点検要領については、下記の製造事業者等のホームページを参考としてください。

会社名	URL
株式会社ソーシン	https://www.sohshin-net.co.jp/page1
横浜車輌工業株式会社	https://www.yokohama-sharyo.co.jp

以上